

# 農林技術研究所だより



## 最新研究紹介

### 【新しい奨励品種】 水稲もち「葵美人」と 小麦「きぬあかり」



現 経済産業部 農芸振興課 水田農業班

井鍋大祐



農業技術研究所 作物科 研究員

白鳥孝太郎

#### 1 はじめに

静岡県内では、主食用米としての水稲が1万6000ヘクタール、小麦が750ヘクタール作付けされており、その内、9割以上の面積で静岡県の奨励品種が栽培されています。当研究所では、県内に普及すべき優良な品種・系統を選定するために、奨励品種決定試験を行っています(図1)。この試験において、県独自に育成した系統の他、国や他県の研究機関が育成した品種・系統から静岡県での栽培に適するものを奨励品種に選定しています。既存の奨励品種であっても、温暖化などの影響で栽培や品質に問題が生じ、新品種への変更が必要となることもあり、優れた品種が新たに選定された際には、奨励品種の改廃を行っています。

#### 2 「するがもち」の栽培上の問題

静岡県の水稲奨励品種は糯(もち)や酒米用の品種を合わせると11種類から除外することが決まった水稲糯(もち)品種の「するがもち」、小麦品種の「イワイノダイチ」と、新たに奨励品種に採用した水稲糯品種の「葵美人」、小麦品種の「きぬあかり」について紹介します。

静岡県の水稲奨励品種は糯(もち)や酒米用の品種を合わせると11種類

あります。その中で、糯品種は主に御殿場を中心とした高冷地で作付けされている「峰の雪もち」と平坦地で作付けされている「するがもち」の2品種があります。静岡県で育成された「するがもち」は昭和52年度に奨励品種に採用されて以降、40年もの間、県内の平坦地で栽培されてきました。しかし、「するがもち」は以下の3つの特性が栽培上の問題となっていました。1つ目は、穂から籾が取れやすい(脱粒しやすい)ことです。収穫前や収穫時に籾が穂から取れてしまうことは、収量の低下につながります。2つ目は、収穫前の籾が発芽する「穂発芽」が発生しやすいことです。収穫物

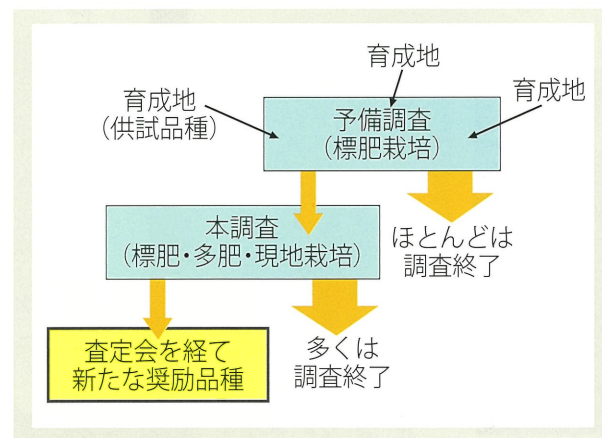


図1 奨励品種決定試験の流れ

#### 3 新たな奨励品種「葵美人」の特徴

新たに奨励品種に採用した「葵美人」は、静岡県が独自に育成した水稲糯(もち)品種です。平成7年度に多収で食味が優れる「静太郎糯」を母に、玄米が大きく食味が優れ、病気に強い「中部糯93号」を父とした交配の後代から育成しました。この品種は、葉がまっすぐ立ち、きれいな草姿をしていることや(写真1)、キメが細かく柔らかい食感のもちができることから、美人が連想され、静岡を表す「葵」と合わせ、「葵美人」と名づけられました。

「葵美人」は、「するがもち」の問題点であった脱粒性及び穂発芽性が改善されており、「するがもち」より稈が短く硬いため、倒伏しにくく、水稲の重要病害である縞葉枯病に抵抗性を持ち、栽培しやすい品種です。「するがもち」と比べ穂数はやや少ないですが、一穂の籾が多く玄米も大きい

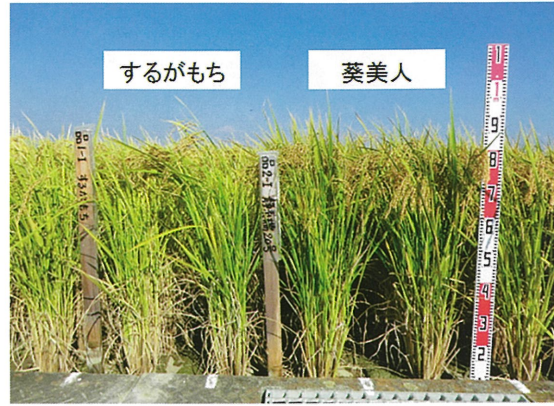


写真1 「するがもち」と「葵美人」の草姿

め、収量は10パーセントほど多収となります。また、つきたての餅の食味が「するがもち」より優れることから、平成28年度に糯の新たな奨励品種に採用しました。栽培しやすく、餅やおこわなどの加工品の食味も優れ、生産者及び消費者に広く支持される品種となることが期待されています。

#### 4 県内の小麦栽培の現状

静岡県の小麦の奨励品種は、平成17年度に採用した「イワイノダイチ」1品種のみで、小麦栽培面積のほぼ100パーセントで栽培されています。しかし近年は、温暖化で収穫前

気温が高いため、登熟不良が発生し、収量や品質の年次変動が大きくなっています。例えば、都府県の平均収量は10アール当たり300キログラム程度で推移していますが、静岡県では200キログラムを大きく下回る年もあります。一方、平成27年度から県内の学校給食では、国産小麦を100パーセント使用したパンや麺類が提供されており、このうちの40パーセントは県内産小麦が使用されています。このため、学校給食用として年間で800トン程度の需要があります。しかし、前述のとおり収量の年次変動が大きく、県内の収穫量が1000トンに達しない年もあるため、県内の実需者から、安定して高い収量と品質が得られる品種の導入が望まれていました。

#### 5 新たな品種「きぬあかり」の特徴

新たに奨励品種に採用した「きぬあかり」は、愛知県で育成された品種です。めんの加工適性が優れる「きぬの波」を母に、早生で多収の「西海184号」を父に交配が行われ、育成されました。

静岡県では、「きぬあかり」を平成18年度から奨励品種決定試験に供試し、検討を進めてきました。従来の

「イワイノダイチ」より、収量が10〜20パーセント程度高く、年次変動も小さい特性が明らかになりました。また、「イワイノダイチ」よりも子実の粒張りが良好で、外観品質が優れていました(写真2)。製粉した粉は灰分が少ないため明るい色のめんができ、生地を強める4種のグルテン遺伝子を持つため、めんの食感が優れます。以上のことから、平成28年度に小麦の奨励品種として採用しました。また、従来の「イワイノダイチ」の穂の色は褐色であるのに対し、「きぬあかり」は黄白色であるため、一目で判別可能です(写真3)。



写真2 「きぬあかり」と「イワイノダイチ」の子実外観

#### 6 おわりに

糯(もち)品種の「葵美人」は平成30年から、めん用小麦の「きぬあかり」は平成29年播種から一般の農家で栽培できるように種子生産を行っています。静岡県が育成した「葵美人」については、栽培に適した移植時期や栽植密度、収穫時期などの検討を行っており、今後は栽培暦を作成・公表していく予定です。新たに奨励品種となった両品種共に、県内で広く栽培されることが期待されます。

連絡先 磐田市三ヶ野7-1  
静岡県農林技術研究所 作物科  
agrisakumotsu@pref.shizuoka.jp



写真3 「きぬあかり」と「イワイノダイチ」の草姿